

県立図書館だより

第147号

平成15年3月

山口県立山口図書館報



子ども読書活動推進フォーラム、各地で開催

平成13年12月、「子どもの読書活動の推進に関する法律」が交布されました。「すべての子どもが、あらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動ができるよう、環境整備を推進する」を基本理念に国や地方自治体などの責務を定めたものです。

これを受けて、山口県では平成14年度、「子どもの読書活動推進事業」を実施することになりました。「子ども読書活動推進フォーラム」は、この事業の一環として行われたもので、萩、下関、徳山、山口の4会場で開催され、延べ約1,000人が参加しました。

(2 頁に関連記事)

子どもの読書活動の推進を目指して フォーラムと推進会議

平成十二年の「子ども読書年」、全国各地で子どもの読書をめぐって様々な取り組みが展開されました。なかでも、民間団体である「山口の子ども読書年推進実行委員会」では、百四十を超えるプログラムを実施するなど、その活動にはめざましいものがありました。

こうした動きを背景に、山口県では平成十四年度、国の補助を受けて「子どもの読書活動推進事業」を実施することになりました。

この事業の趣旨は、「地方自治体の読書活動の推進体制の整備、地域の公立図書館が中心となった子どもの読書活動を推進する事業の実施を支援し、もって、子どもたちが自主的に読書活動を行うことができる環境を整える」というものです。

このため、子ども読書活動推進フォーラムを開催し、また、子ども読書活動推進会議を設置して山口県における推進方を協議することになりました。

フォーラムは、萩市、下関市、徳山市、山口市と四会場で開催。テーマもそれぞれ、「紙芝居」「絵本」「中高生の読書」と定め、山口市でのフォーラムは総まとめの内

容としました。

第一回目のフォーラムは、九月一日(日)、サンライフ萩で開催しました。絵本作家であり紙芝居作家の長野ヒデ子さんをお招きし「楽しさ広がる紙芝居の世界」と題した講演をしていただきました。



続く「紙芝居フォーラム」もつとつと紙芝居」では、地元

の「子どもと本ジョイントネット」21・山口 萩ベースキャンプ 草の芽」の方々、明倫小学校六年の柴田あいさん、萩高等学校一年の伊藤菜穂美さんによる紙芝居の実演と長野ヒデ子さんによる講評が行われました。長野ヒデ子さんの温かい

人柄とあいまって、紙芝居の魅力が十分伝わってくるような内容でした。

海峽メッセ下関では、十一月三十日(土)、詩人の工藤直子さんによる講演「『のはらうた』のひみつ」があり、続いて児童書専門店「子どもの広場」経営の横山真佐子さん、こどもと本ジョイントネット21・山口代表の山本安彦さんによるフォーラム「絵本のことば・詩のことば」がありました。途中、「版画のはらうた」の画家保手浜孝さんも飛び入りで自作「のはらうた」の版画をスライドで紹介する場面もあり、予測できない楽しい進行に会場は大いに盛り上がりまりました。

十二月二十一日(土)、徳山市民会館で開催したフォーラムは、「中高生の読書」という難しいテーマでの開催なので参加者も低調ではないかと心配していました。しかし、中高生に熱烈なファンを持つ作家上橋菜穂子さんの講演「ファンタジーはおもしろい!」や、地元小学校やボランティアの方々の熱心な取り組みがあり、予想以上の参加がありました。なかでも、フォーラム「本も捨てたもんじゃない」に周南地区の中高生七名も参加、作家の村中李衣さんや上橋菜穂子さん、山本安彦さんにまじって大人に負けない積極的な発言が



あり、会場をわかれました。

そして三月八日(土)、山口県教育会館において、第四回目のフォーラムが開催されました。まず、ノンフィクション作家の柳田邦男さんによる「絵本 読み聞かせこそ原点」ET時代の子どもを救うために」と題した講演がありました。そして、柳田さんの他に、児童文学作家の角野栄子さん、NPO法人「図書館の学校」の佐藤涼子さんも加わりフォーラム「すべての子どもに本との出会いを」が横山真佐子さんの司会のもとに進められ、子どもの読書活動の今後を展望する絶好の機会となりました。

いずれも、地元のボランティアに支えられた熱のこもったフォーラムとなりました。

ホームページ利用状況

ホームページは、平成十四年三月に開設され、四月から本格稼働を始めて、ほぼ一年がたちました。カウンターに検索結果のプリントアウトをお持ちになる方も目につくようになり、ホームページをかなりご利用いただけるようになってきたと思います。

ホームページのページ

<http://www.library.pref.yamaguchi.jp>

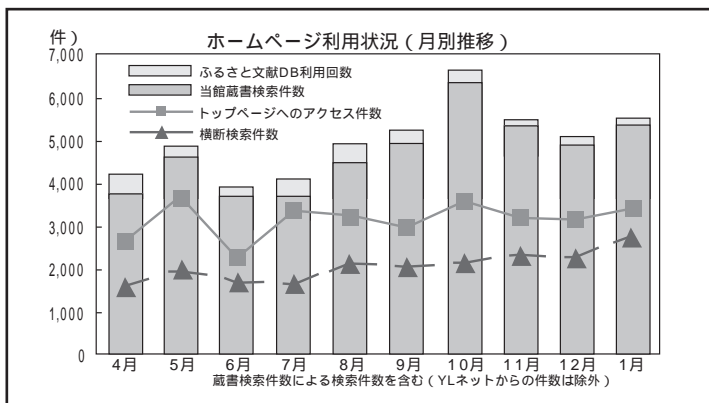
アクセス件数も、定期的な増減はあるものの全体的には着実に増えています。特に県内公共・大学図書館の蔵書を一括検索できる横断検索の利用が伸びています。今後、内容充実を含め、より使いやすいホームページになるよう改善をしていく予定ですので、ご意見ご要望をぜひお寄せください。

Eメールで受け取れます

レファレンス回答・予約の

お知らせ

レファレンスの申込みが、ホームページ上からでもできるようになりました。「レファレンス・サービス」のページにある申込みフォームに入力し送信していただくと、メールで回答をお送りします。詳



しくはホームページ上のレファレンス・ガイドをご覧ください。また、予約や購入希望の本がご用意できた時も、メールでお知らせできます。このサービスを受けるためには、まずメールアドレスの登録が必要です。ホームページの「利用案内」にある「サービス一覧」の「予約・リクエストサービス」をご参照ください。入力フォームによる登録ができます。携帯電話の方は携帯電話用のホームページをご覧ください。

市町村立図書館と

ホームページ

県立図書館のホームページには、一般個人向けとは別に、県内の市町村立図書館が業務用に利用できるものが用意されています。リブスタッフと呼ばれるこの図書館支援用のホームページは、通常メニューの他に、所蔵検索の画面から県立図書館への貸出依頼ができるシステムやレファレンスの依頼、図書館員相互の情報交換のための掲示板機能などを備えています。

特に資料の貸出依頼は、これまでのようにパソコン通信で所蔵を確認し、貸出申込書に記入して県立図書館へファックスするという、手間のかかる作業が大幅に省力化されました。四月の本格稼働以降、ホームページからの貸出申込みは順調に増え、一月末現在、県内ほとんどの市町村立図書館から四千件に上る依頼があり、本館用図書の出出は平成十三年度に比べて二十六%も多くなっています。また、大学を含めて十九館の蔵書が同時に検索できる横断検索システムによって、それまで、所蔵館が見つかるまで各図書館ごとに接続・検索を繰り返していた所蔵調査はるかに短時間でできるようになりました。利用者の幅広い

資料要求に応えるために、増加の一途を辿っている図書館間相互貸借に威力を発揮しています。

こうした便利な機能は市町村の図書館からも高く評価されていますが、まだまだ不十分な部分があります。その一つが検索した資料が貸出中か在庫かがわからないことです。また、市町村立図書館側から直接予約をかけることもできません。いずれも、当館の貸出業務システムと連動していないため、今後の検討課題となっています。

市町村立図書館からの貸出依頼の中には、利用者が自ら県立図書館のホームページで所蔵を調べ、取り寄せを依頼されるというケースもかなりあるように聞いています。貸出申込みのあった資料は、巡回協力車や週一回の宅配便で、各図書館へ届けています。

県立図書館では、この図書館専用のホームページを県内図書館ネットワークの重要な絆として活かしていくために、今後、市町村立図書館の声を聞きながらより充実させていくことにしています。



ますます便利に身近に 遠隔地利用者返却システム本格実施

～ 県立図書館の本が市町村立図書館でも返せます ～

県立図書館では、遠隔地にお住まいの方にも気軽に利用していただけるよう、一部の市町村立図書館の協力を得て、平成十一年六月より『遠隔地利用者返却システム』の試行を始めました。さらに平成十四年四月からは三十六市町村立図書館の協力を得て、本格的にこのシステムを実施しました。

このシステムは、県立図書館で借りた図書を、居住地または通勤・通学されている地域の市町村立図書館（手続の方法およびシステム参加館については後述）を経由して返却できるものです。次第に利用も増え、平成十四年度の利用者数（平成十五年一月末現在）は延二百二十三人、七百四十五冊となっています。今年度より当館のホームページから蔵書検索が可能になり、どこにお住まいの方でも当館の図書が探せるようになりまし。直接来

館して、このシステムを利用されることはもとより、市町村立図書館から当館の図書を申し込んでいただく「協力貸出」も併せてご利用ください。県立図書館では今後とも、県内全域の人々が身近に図書館サービスを受けられるよう努めていくことにしています。

《手続きの方法》

1 当館で図書を借りる際に、二階の参考カウンターで利用申込書に所要事項を記入し、明細書二枚を受け取ってください。

2 市町村立図書館に図書を返却する時は、明細書二枚を添えて図書と一緒に、直接職員にお渡しください。その際、受領印を押してお渡しする明細書が返却の控となります。

遠隔地利用者返却システム参加図書館

下関（下関）・宇部・萩・徳山・防府・下松・岩国（中央）・小野田（小野田）・光・長門・柳井・美祢・新南陽（新南陽）・久賀・大島・東和・橘・和木・由宇・玖珂・周東・錦・大島・美和・田布施・平生・熊毛・鹿野・徳地・山陽・菊川・豊田・豊浦・秋芳・須佐・旭

以上の各市町村立図書館

news

県立図書館の将来を考える 「進化へのプラン」

県立図書館は平成十五年に開館百周年を迎え、同年、待望の山口市立図書館が開館します。県立図書館を取り巻く環境はこのほかにもさまざまな変化しています。このような時機に当たり、平成十三年五月、県立図書館機能強化委員会が発足、その方策と計画について検討を重ねてきましたが、十四年八月、検討結果を「県立図書館進化へのプラン」としてまとめ館長に報告しました。

プランは、「未来デザイン21」「教育ビジョン」、「生涯学習圏構想」等の県の長期計画に沿ったもので、国が告示した望ましい基準や、県図書館協会の策定した数値基準を参考にしています。

第一章では、県立図書館を取り巻く変化と県立図書館の課題を七項目にまとめ、第二章では、このプランの実現によってどのような社会的貢献が求められているのかを、県立図書館の役割宣言として示しています。

第三章は、平成二十二年度までの目標と到達指標をサービス、資源管理、管理運営の三つのタイプに

分けて設定し、各到達指標には財政見通しに応じた優先度を付けています。

第四章では自己点検と評価について述べ、第五章には、十五年度の行動目標を掲げています。これは、優先度の高い到達指標について、職員アイデアを取り入れ四つの行動目標にまとめたものです。

付章には、行動目標の設定に役立つ職員アイデアを、三つの目標タイプに分けてすべて載せました。今後、このプランはプロジェクトチームによって推進され、自己評価委員会による評価を経ながら実現に移されることとなります。

「コピー料金値下げ」

当館では、所蔵資料のコピーサービス、著作権法を遵守して行っています。

平成十四年九月一日から、申請者自身が複写を行うセルフコピーの料金について、これまでの一枚二十円を十円に改定しました。

これは、「山口県情報公開条例」および、「山口県個人情報保護条例」の規定に基づき徴収している、「公文書の写し等の交付に要する費用」の値下げに合わせたものです。

なお、図書館の方で複写を行う委託によるコピー料金は、一枚三十五円とこれまでと変わりませ

総合学習で

見学・調べ学習倍増！

平成十四年度、図書館見学や調べ学習で来館した学校は三十校、一、二五人に上りました。十三年度に比べて倍増となっており、今年度から始まった総合学習の影響とみています。見学の際には、「県立図書館の自慢」「利用する人に望むこと」などたくさん質問が寄せられました。後日いただいた感想文では、日頃見ることができない、古い新聞や本が整然と並んだ書庫の印象に触れたものが多かったようです。



カウンター体験中です

また、職場体験学習に七校から十五人の中学生が訪れて、カウンター業務や図書装備などを体験しました。その際、司書の仕事は、本だけでなく人に接する仕事であること、また、よりよいサービスをするために、普段は目に触れない、いろいろな仕事があることを

伝えました。カウンターでは、利用者の方から温かい励ましの言葉をかけていただき、緊張がほぐれていた様子が印象に残りました。

公立図書館職員等

専門講習会開催

八月から十二月までの計五回、公立図書館や公民館図書室の職員を対象とした講習会を開催しました。インターネットの活用方法や学校図書館との連携、郷土資料をはじめとする資料収集の大切さ、レファレンス演習、文書館資料、図書館の自己点検・自己評価など充実した研修内容で延べ二百十六名が受講しました。最終日は図書館見学を兼ねて徳地町立図書館を会場に開催し、とりわけ関心の高い著作権、図書館の自由をめぐる問題について学びました。

プレクストーク講習会

山口県点字図書館では、平成十四年十二月四日の午前と午後の二回、視覚障害者とボランティアを対象にした、新しいデジタル図書録音再生機「プレクストークポータルレコーダーPTR1」の説明会を開催しました。(以下「PTR1」)

「PTR1」は、プレクスター

はじめまして

内山和彦さんは、平成14年4月、県立図書館職員として採用され、参考課で主にカウンターでの対応や相互貸借に関する仕事をしています。

図書館の仕事に就いて1年経った今の心境や、これからの抱負を聞いてみました。



県立山口図書館での勤務も、はや一年近くなりました。多くの方々、多くの本との出会いの中で、知識や経験が少しずつ増えて行くにつれ、分からないこと、知りたいこともまた増えていきます。

早く一人前にならなければと思いつつ、初心を忘れず、カウンターの中からは見えないこと、物事の中心にいては分からないことを大事にしたいと考えています。移り変わりの激しい世の中ですが、「人間万事塞翁が馬」、変化を楽しみながら、チャーリー・ブラウンのように前向きに生きたいと願う、今日この頃です。最後に、私事で恐縮ですが、最近、大きめの本棚を買いました。本で棚が埋まって行くのを見るのは、何となくうれしいものですね。

(株)が同年夏に発売した新製品です。従来の再生・検索機能に新たにデジタル録音機能が加わりました。また軽くてコンパクトなので携帯に便利、一台で簡単にCD図書が作れる、パソコンに繋がればCD/R/RWドライブとして利用できるなどの特長があります。

説明会では、講師のプレクスター社員の指導のもと、二十八名の参加者全員が実際に「PTR1」を使ってみました。身近に触れる機会が少ないので、視覚障害者の方に特に好評でした。

郷土資料担当者会議開催

十二月五日・六日の二日間、当

館において中国地区県立図書館郷土資料担当者会議が開催されました。郷土資料の収集・整理・保存やサービス機能の充実を図ることを目的として、各県の現状や諸問題について情報を交換し、研究協議を行いました。ホームページの開設に伴う郷土情報の発信についての協議を中心に、資料のデジタル化、地域資料のデータベース化等について活発な意見交換がなされました。

また、山口県文書館の戸島副館長による「文書資料の活用と保存」についての講義と、施設見学も行ないました。来年度は、広島県開催の予定です。

図書館の資料シリーズ(19)
人口を調べる

日本の人口は、大化改新後の六七〇年に作成された全国戸籍「庚午年籍」で、すでに集計されていたようですが、以後全国的には享保六年(一七二一)の江戸幕府による国別人口調査に始まり弘化三年(一八四六)まで続けられました。

前近代的身分社会であった江戸時代における幕府の国別人口調査には、人口統計としては不完全なところが多いのですが、世界的に見ても、十八世紀の初めに一国の人口を地域ごとにとらえようとした例は他に少なく、貴重なものといえます。

このあとの「空白の四半世紀」を経て、明治五年(一八七二)の壬申戸籍成立以降、本格的な全国人口調査が行われ、日本最初の人口統計「日本全国戸籍表」(明治五年)が作られました。

今回は、山口県および日本の過去・現在・未来の人口について調べるための主な資料を紹介いたします。

- 【山口県の人口】
- 山口県の統計百年
- 山口県総務部統計課
- 戸籍法施行後の明治五年以降の

山口県の人口、出生・死亡等推移
山口県統計年鑑(年刊)

山口県地域振興部統計課
明治九年からの山口県の人口、世帯数、人口密度、昭和十年から五年毎の市町村別人口。出生・死亡・結婚・離婚の市町村別人口動態。

県勢やまぐち(月刊)

山口県地域振興部統計課

市町村別人口及び人口動態

県内各市町村広報

各市町村の最新の人口、世帯

統計で見える県のすがた(年刊)

総務省統計局

各項目毎に都道府県の順位が示され他道府県との比較ができる。

【日本の人口】

人口の動向 日本と世界(年刊)

国立社会保障・人口問題研究所

人口に関する基本的統計を網羅

縄文・弥生時代の日本人口、江戸時代の推計人口もある。

国勢調査以前日本人口統計集成

内務省

国勢調査以前の、明治期の全国

の人口調査を網羅。

国勢調査報告(五年毎)

総務省統計局

わが国人口の基本統計。大正九年から開始され、十年毎の大規模

調査とその中間年の簡易調査から

成る。我が国に三ヶ月以上住んで

いるすべての人を対象とし、国内

の人口や世帯の実態を明らかにす

るもの。

第二巻のその二は「都道府県・市

区町村編」で市区町村別の男女

別年齢人口。

住民基本台帳人口要覧(年刊)

国土地理協会

住民基本台帳に記録されている市区町村別の男女・年齢別人口、世帯数、人口動態。
「国勢調査」との違いは、外国籍の人や世帯が入らない、住民票を移動していない人は、元の場合で集計されているので、実態とは必ずしも一致しない。
住民基本台帳人口移動報告年報(年刊) 総務省統計局
住民票に基づく人口移動統計。
県別、市区町村別、月別の転出者数、転入者数、海外からの転入者数がわかる。
人口動態統計(年刊)
厚生労働省統計情報部
我が国の人口動態の事象を明らかにして、人口および厚生行政施策の基礎資料を得ることを目的。
出生・死亡・婚姻・離婚及び死産の五種類の人口動態がわかる。
人口推計年報(年刊)
総務省統計局
人口推計月報(月刊)
総務省統計局
国勢調査の数値に毎月の人口動態統計の出生・死亡の数値をプ

スマイナスして推計した人口統計
日本の将来推計人口
(不定期刊 約五年毎)

国立社会保障・人口問題研究所
戦後より「国勢調査」の結果を踏まえて作成されており、全国の男女年齢各歳別人口を対象。
五十五年先まで、さらに超長期の参考推計としてその先の五十年間の将来人口を推計。

一般的統計書の中の人口統計
日本の統計(年刊) 総務省統計局
日本国勢図絵(年刊) 矢野恒太記念会
民力(年刊) 朝日新聞社
市町村情報総覧 東・西日本編
市町村情報ネットワークセンター
インターネット上の統計情報
総務庁統計局統計センターの「統計データ」に各統計調査の紹介。
他府省などへの統計情報のリンクもある。

統計ガイドブック
統計情報インデックス(年刊)
総務省統計局
各府省や民間機関などが作成している統計調査に関する情報を収録。五十音順のキーワードで関連の統計書がわかる。
官庁統計徹底活用ガイド(年刊)
日本能率協会総合研究所
官庁の主要な統計についての内容とQ&A方式による説明。

「山口県中央図書館報」改題「読書防長」改題「山口図書館だより」改題「図書館やまぐち」改題